

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

2010年 10月 30日

派遣者氏名（専門分野）	鈴江文子（英米文学）
-------------	------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	Jack London の死生観
-------	------------------

派遣期間

2010年 9月 2日 ～ 2010年 9月 13日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	アメリカ	ワシントン	アメリカ議会図書館	なし

派遣先で実施した研究内容

1. 目的

ジャック・ロンドン(1876-1916)の著名な作品“*The Sea-Wolf*”に関する資料調査を目的とした。ロンドンは、20世紀転換期の著名なアメリカ文学作家の一人である。動物小説、政治的エッセイ、ルポタージュ、近未来SF小説、自伝的小説など多岐にわたるテーマを扱っていた。そのため思想は複雑であり、作品を研究する上で欠かせない要素である、作品に関する論文だけではなく書簡などの資料も調査の対象とした。第一の目的は、“*The Sea-Wolf*”についての重要な論文が多く投稿された、日本では入手できない定期購読雑誌 Jack London Newsletter の資料を持ち帰ることであった。

2. 資料にたどり着くまで

上記した雑誌、Jack London Newsletter の閲覧を希望した。まず貸出願いフォームに雑誌名や希望巻等の必要事項を記入してレセプションに提出する必要があった。提出後、数時間すると司書の方が自分の机まで持ってきてくれる。とりあえず全巻閲覧希望で提出したが、数時間後に司書の方が持ってきてくれたのはたったの2巻分だけであった。これだけしかないのかと驚き、司書にこの雑誌の全巻が見たい、という旨を直接伝えてみた。するとその足で書庫まで見に行ってくれ、「これだけしかなかったよ」といって3～19巻間のとびとび8巻分を出してきてくれた。後日、別の司書の方何人かにも聞いてみたが、この日閲覧できた巻以外のものにはたどりつけなかった。毎日増え続ける図書館の膨大な資料のためか、資料がオンラインカタログに完璧に反映されていないことは少なくないようである。こういった場合、やはり司書の方に直接聞くことが重要だと感じた。

次に書簡を探した。オンラインカタログでは自力で探した限り見当たらなかったため、マニュスクリプト・リーディングルームで直接司書の方にジャック・ロンドンの資料があれば見たいと伝えた。すると、いくつかの著名人のフォルダーに点在し、合わせて4通あるとのことであった。それからは閲覧申請の仕方から返却のしかたまで非常に丁寧に教えてくれた。資料は直筆の手紙が2通、マニュスクリプトで閲覧可能なものが2通あった。直筆のものは写真におさめ、コピーをしてよいか聞くと了承を得られたのでコピーにもして保存した。マニュスクリプトはUSBメモリに保存した。

今回の資料調査を通して感じたことは、司書の方に進んで質問することが大切だということである。司書の

方たちは総じて親切であり、閲覧したい資料が見つからない場合でも、探索に協力してくれる。その時いらっしゃる司書によって思いもかけない資料に巡り合える可能性も大いにありうると感じた。

### 3. 総括

以上、図書館での資料調査について記述した。この経験はもちろんのこと、現地での多くの親切な方たちとの交流も非常に貴重な財産となった。仕事場のデスクで、ライブラリアンとしての仕事を教えてくださった藤代さん。ライブラリアンしか知らない情報を交えて館内ツアーをしてくださった菅井さん。そして、最終日にお別れパーティーを開いてくださった春美さん。御三方の、アメリカという地で日本のことを考え、日本人として誇りをもって仕事をやっていらっしゃるお姿が印象的だった。自分にとっても、日本を再考すること、そして外国へと視野を広く持つということを考えるととても有意義な出会いとなった。最後に、この出会いの機会を設けてくださり、宿の手配や生活に関するアドバイスはもちろん、いたらない私たち学生を引率、指導してくださった小林先生には感謝します。

### 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

ジャック・ロンドン(1876-1916)の著名な作品“*The Sea-Wolf*”に関する資料調査を目的とした。作家の思想への知識を深めることも目的とし、作品に関する論文だけではなく書簡などの資料も調査の対象とした。第一の目的は、“*The Sea-Wolf*”についての重要な論文が多く投稿された、日本では入手できない定期購読雑誌 *Jack London Newsletter* の資料を持ち帰ることであった。結果、それらを含む以下のいくつかの貴重な資料を手に入れることができた。

- ・“*The Sea-Wolf*”についての論文—8本
- ・“*The Sea-Wolf*”が1904年に初めて作品を掲載した雑誌のマニュスクリプト画像
- ・その他の作品についての論文—3本
- ・ロンドンの思想についての論文—6本
- ・ロンドンの書簡画像—4つ

第一目的としていた *Jack London Newsletter* における“*The Sea-Wolf*”についての論文は、8本ほど資料として持ち帰ることができた。目指す研究の方向性と類似点が多くあるものを得られたため、研究を進める上で大いに参考になっている。また、その他のロンドンの思想についての理解を深める論文もいくつか手に入れることができたので、これからさらに読み込んでいき、思想理解の助けとしていきたい。また、書簡等の資料については、これからじっくり内容を理解していく。一読しただけでも女優、植物学者、社会主義者と文通の相手の顔触れは実にさまざま、ロンドンの多方面にわたる交友を垣間見ることができ、非常に興味深く感じた。しかし何といても直筆の手紙を自分で読んだ際には、初めてロンドンを実際に存在していた人物として捉えられたような気がして感動し、研究への意欲が一層高まった。

### 派遣後の研究発表の予定

10月21日に横断的研究視察報告会が実施され、本プログラムにおける成果を報告させていただいた。また、今後修士論文発表会では今回の調査の結果を反映させたものを発表する予定である。